

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270100864		
法人名	特定非営利活動法人 久米の家		
事業所名	グループホーム 久米の家		
所在地	島根県松江市法吉町803番地2		
自己評価作成日	令和4年3月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和4年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

久米の家では、ご利用者1人ひとりの想いや個性、生活スタイルを大切に日々の生活に活かしています。ケアの1つ1つの意味や根拠を理解した上で行っています。ご利用者、ご家族様に「久米の家でよかったな・・・。」と思って頂けるように取り組んでいます。昨年令和3年4月から記録を電子化にしました。色々な年代の職員がいますが1年間全員が頑張ってタブレットにとりくみ、業務改善した時間でご利用者様との関わりの時間に繋げ、より一層の絆に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、地域密着型事業所として地域と積極的に関わり活動している。コロナ禍であったが防災出前講座や文化祭参加、パソコン教室開催など地域住民との関係づくりを継続している。運営推進会議は感染予防に注意し従来通りの開催や書面開催など柔軟に対応し意見をサービスに活かしている。職員は基本理念に沿い利用者一人ひとりの目指す姿を内・外部研修や日々の話し合いで共有しケアを実践している。全員が取り組んだ記録の電子化は業務に変化をもたらし、利用者とのゆとり関わりができるゆとりや職員の休憩時間も確保でき働きやすい職場づくりとなりサービスの質の向上に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時に理念については、オリエンテーションで伝え施設内研修でも行っている。また、定例会やカンファレンスの時にも理念に基づいたケアが出来ているか振り返りを行っている。	毎月の定例会や日々のミーティングで話し合い理念を共有している。一つひとつの行動は理念を意識したケアとなるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。コロナ感染予防で回数は少なかったが事業所で体操教室やパソコン教室など開催を行った。地域の方が野菜を届によく来られご利用者様もお礼を伝えられている。	コロナ禍なので参加行事や人数の縮小はしたが積極的に地域の一員として協力関係を築き交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方から対応方法について相談をされ支援やアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや日常の様子を映像やスライドで伝えている。また、運営推進委員のメンバーにも地域交流に参加して頂いている。困難事例やヒヤリハット、事故報告についても推進会で話し合っている。	書面開催時は事前に返信封筒を付けて資料を配布し情報や助言を得て活動に活かしている。委員から「地域の財産となる存在になってほしい」という声をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から判断に困った事や分からない事は相談し助言を頂いている。また、運営推進会議を通してサービスの取り組みを伝えたり困難事例やヒヤリハットについても相談している。	運営推進会議やたよりで状況を伝え、担当者と意見交換をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会や研修等で理解に努めている。開所当時から玄関等の施錠を含めて身体拘束をしないケアを心掛けている。言葉で行動を拘束しないように言葉掛けの工夫を行っている。	毎月委員会を開催して理解に努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束、時間の拘束をなくし利用者の立場になって対応することに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や研修を行い理解に努めている。職員が1人になる夜間の業務も細やかに見直しを行っている。また、研修でアンガーマネジメントについて学び自己の気持ちのコントロールについても振り返りを行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い制度について学び理解に努めている。過去支援に繋げ活用に繋げた実績がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時等は、わかりやすい説明を心掛け疑問や不安な事がないか確認を行っている。また契約後も疑問か心配がないか都度確認を行うように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご利用者が参加され意見を言える場を提供している。ご家族との面会時に意見を伺い運営推進会議に反映するように努めている。	面会時に話を聞くように心がけている。運営推進会議の場でも気軽に意見を言ってもらえるような関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や面談を通して職員の提案や意見を聞く機会を設けている。また、日常的な関わりや会話からも職員の想いを汲み取り運営に反映している。	日頃から職員の話聞く機会を持ち意見や提案を聞きみんなで話し合いながら取り組んでいる。一人ひとりの状況に合わせた勤務体制を柔軟に検討し短時間勤務の継続など対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに合わせた勤務体制が行われている。育休、介護休暇、短縮時間勤務制度、有給休暇も取得率100%で今年度は、短時間勤務を小学校4年生になるまで延長した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の能力に応じて、資格取得や外部研修を提案し確保に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でオンラインで小規模連絡会に参加したが例年に比べると交流が少なかった。新たな交流の形を考えて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の見学時や訪問の際にご本人と話す機会を設けおり、その際に話を伺うようにしている。サービス前の地域交流にもお誘いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と一緒にご入居後のイメージを持ち課題や不安な事、要望についても話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺った上で必要なサービスに繋げるようにしている。併設施設の小規模多機能型居宅介護や在宅等に繋げた事例もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念を柱にご利用者の望む生活を共に築いていけるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活の様子を伝えケアや課題についても相談し、一緒に考えている。ご利用者とご家族が共に過ごされる時間を大切にサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	写真入りの手紙や年賀状のやり取り、オンラインなどで関係を継続出来るように心掛けている。	馴染みの人との関係を大切に家族や親族との電話や手紙のやり取りを支援している。オンライン面会や窓越し面会など柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性に十分に配慮し席を決めている。ご利用者同士で居室でお茶を飲まれたり、憩いの場、テラス、渡り廊下なども活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節のお便り、機関紙、ご家族との関係を継続しご様子をお伺いしている。終了後も相談の連絡があり支援に繋げている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話から得た情報をカンファレンスや記録の時に共有し、思いや希望の把握に努め実現出来るように話し合っています。	日常の関わりの中で声を掛け思いや悩みを聞き、言葉や気づきを記録してカンファレンスや記録の時に情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できる限りサービス前に自宅訪問や生活歴や環境等の聞き取りに時間を掛けるようにしている。また、関係機関からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の体調や気持ちに合わせて1日の過ごし方を柔軟な対応を心掛けている。日頃から何が何処まで出来るかを把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の思いを計画に反映するように努めている。職員間では、ご利用者の目指す姿を目標に気づきや介護方法にも十分に話し合い柔軟に計画に取り入れている。	日頃から気づきを伝え合い、利用者や家族の思いを反映させた計画となるようカンファレンスや会議で話し合い作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に職員の対応方法やご利用者の言動や表情を記録に残し、次のケアや計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人の希望に応じて外泊も支援している。県外のご家族と月1回オンライン面会も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望時に散髪美容師が来られたり、貼り絵など地域の文化祭に作品として提出している。運営推進会議を通して民生委員や福祉推進委員の方との関係作りに取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時にかかりつけ医の希望を聞いている。月に1回の往診や他の医療機関に受診されている。他の医療機関には、受診前に電話やファックスなどで情報を共有している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医を継続し、情報を提供して望む医療を受診できるよう支援している。定期的に訪問診療があり他の専門外来を受診する人もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約している。月1回の訪問時に情報を共有し、相談している。併設施設にも看護師が勤務しており、その都度相談し必要な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ詳しい情報提供を心掛けている。入院中は面会や病院の関係者等と連携し早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」を利用し、ご本人、ご家族に意向を確認した上で主治医参加のもと、話し合いの場を設け支援に取り組んでいる。	利用者、家族の希望を尊重し、指針を基に事業所のできることを伝え、家族の意向を都度確認して方針を共有しチームとして取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から研修で学び訓練に繋げている。夜間慌てないように電話近くに急変時の手順書が設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地域や行政の方とも災害時の研修や避難方法など話し合いを重ねている。職員全員が防災メールに登録し日頃から災害について意識している。	利用者参加で定期的に避難訓練を実施し避難方法を身につけている。出前講座「自然災害から身を守るために」を開くなど地域との協力体制を築いている。地域から新たな避難場所の提供の申し出があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の気持ちに配慮した言葉掛けや対応に配慮している。職員は、黒子のようなさりげないケアを常に目指している。	利用者を尊重した対応を心がけ、言葉使いには特に気をつけている。排泄や入浴の際にはさりげない声掛けや対応を行いプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどのご利用者がご自分の意見をはっきりと言われている。意志疎通が出来ない方は、その方ならこうしたいのでは・・・と相手の立場に立って考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に業務優先でなくご利用者優先の対応を心掛けている。帰宅願望時など説得より一緒に出掛けたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝やホールに出られる前など洗面所で身だしなみを整えられるように支援している。髪型もご利用者の希望や似合う髪型にされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせて食事形態を検討している。メニューは、ご利用者の希望を聞いて献立に活かしている。下膳できる方には手伝ってもらっている。	現在は一緒に食事づくりをすることは難しいが野菜の下ごしらえやおやつ作り、誕生日の食事など一緒に楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分量は、把握している。水分摂取は、色々な飲料をこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを個々の能力に合わせて支援している。その人その人の口腔内の状況で歯ブラシや口腔スポンジ、舌磨きブラシなど支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、ご利用者に合わせた誘導方法やトイレでの排泄の支援を行っている。状況に応じてパットの検討をこまめに行っている。	日々の記録を基に排泄パターンを知りその人に合わせてさりげなく声掛けや誘導をしている。一人ひとりに適した排泄用品を検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事(線維質)や水分量には、工夫や配慮を行っている。また、自然な形で動いて頂けるように働きかけている。また個々の状態に合わせ、主治医に下剤の相談も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の体調やその時の気分に応じて声掛けや支援を行っている。入浴のお誘いをする所から入浴支援と思い配慮している。	利用者の体調やその日の気分に応じて声掛けを工夫し柔軟に支援している。車いすの人も職員2人で湯ぶねの中に入れるよう対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠に影響がない程度、個々の体調に合わせて休息を支援している。室温や灯りなど個人の好みに応じている。なるべく日中の活動を豊かにし安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解するように努めている。飲み方など工夫が必要な方は工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事出来る事が役割に繋がるように支援している。書道や歌や踊りが得意な方には、発表の場を提供している。皆様食後に大好きなコーヒーを楽しみにされている。毎日読書を楽しまれている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は、ドライブや公民館の文化祭に参加くらいであった。天気の良い時に外気浴や散歩に行くことを支援している。	外気浴をしたり、散歩や花、野菜づくりなどその日の天気や体調、希望などで柔軟に対応している。コロナ禍でも感染対策をしてドライブで道の駅やカラオケ、外食など楽しめる機会をつくっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人か少額お金を持たれている方がいるがコロナ禍で買い物外出を現在してなく、希望を聞いてご本人の好きなパンやお菓子を職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話、オンラインなど利用して支援している。御家族の顔が見れるオンラインを一番喜ばれるので、オンラインツールの仕方などご家族に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常から季節感を取り入れるように心掛けている。廊下に写真や作品を飾りご利用者の散歩コースになっている。	花や季節感のある飾り付けをし、テラスやソファなど好きな所で過ごせるようにしている。居室のある廊下には利用者の写真や作品を飾り楽しめる空間にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	天気よい時は、テラスや憩いの場で一人でお茶を飲まれたり、仲のよいご利用者と話しをされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾ったり、好みのシーツやカーテンの色で居心地よい居室作りをご本人、ご家族、担当職員とで行っている。	花や家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具や好みの物を置き、安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃から何がわかって、何がわかりにくいのかを把握し職員間で話し合い、環境整備に努めている。夜間帯は、職員手作りの施錠のお知らせの札を利用している。		